２０１３年(平成25年)
8月1日 (木)
第 74 号

ラビット通信

発行所　医療法人社団立靖会　ラビット歯科
〒001-0024　札幌市北区北 24 条西 4 丁目 1-21
モンレーブ 24　4Ｆ
電　話(011)769-9828　ＦＡＸ(011)769-9837
介護保険事業所番号：０１３０２３４２８９
URL：http:// www.rabbit-dental.com/

誤嚥性肺炎の現状

日本の死因の推計

厚生労働省による平成２４年人口動態統計の年間推計によると日本の死亡数は１２４万５０００人、死亡率（人口千対）は９．９と推計さるとのことです。

主な死因の死亡数は、第１位悪性新生物３６万１０００人、第２位心疾患１９万６０００人、第３位肺炎１２万３０００人、第４位脳血管疾患１２万１０００人と推計されます。

注目は第３位の肺炎です。年次推移を左記の表に示しますが、殆ど変化のなかった順位が、平成２３年を境に肺炎と脳血管疾患が逆転しています。

肺炎で死亡した人のうち９０％以上が６５歳以上の高齢者であり、そのほとんどが誤嚥性肺炎と言われています。

気管の入口には喉頭蓋（こうとうがい）とよばれるふたがあり、食べ物を飲み込む時には反射的にふたが閉じる仕組みになっています。

しかし、年をとると、反射が鈍り、異物が誤って気管から肺に入りやすくなります。その際、もともと口の中に存在する雑菌や胃液が、食べ物や唾液と一緒に肺に入り込んで引き起こされるのが、誤嚥性肺炎です。

	平成１２年	平成１７年	平成２２年	平成２３年
第１位	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物
第２位	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患
第３位	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患	肺炎
第４位	肺炎	肺炎	肺炎	脳血管疾患

不顕性誤嚥による肺炎の発生機序

食事を摂る

↓

就寝

↓

唾液の分泌

↓

唾液に含まれる細菌が肺へ

不顕性誤嚥

↓

免疫力低下の状態にあると肺で感染

肺炎になる

不顕性誤嚥とは、睡眠中など本人の気付かないうちに少量の唾液や胃液が気管に入るものです。誤って飲み下した自覚がないから、何度も繰り返して発症するのが特徴です。予防するにはお口の中を清潔にして細菌が肺に入ることを防ぐのが重要です。